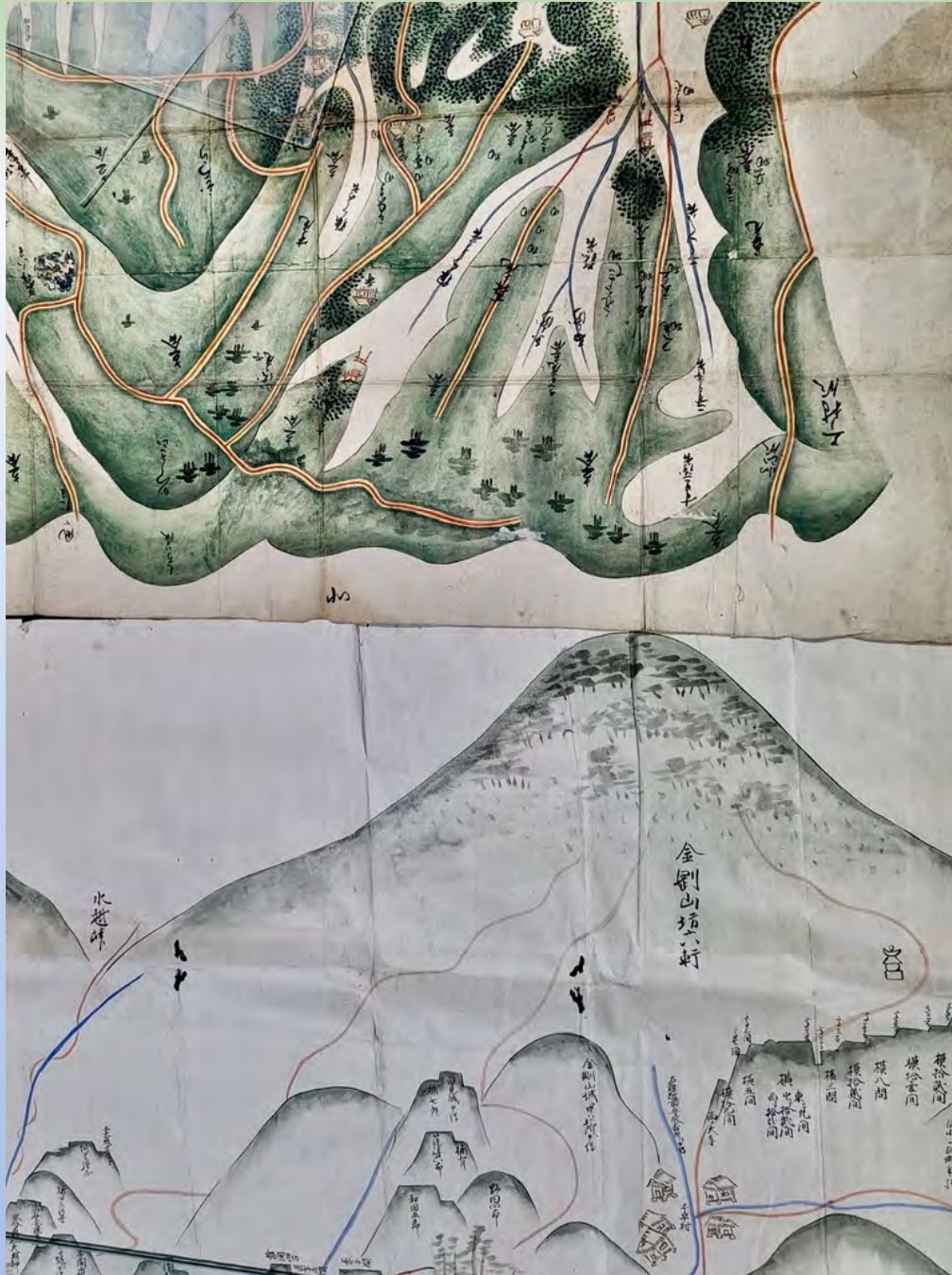


天誅組の手紙

藤岡家に届いた天誅組関連書簡

令和7年1月7日（火）～3月20日（木・祝）



登録有形文化財「藤岡家住宅」

NPO 法人うちの館（やかた）

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 番地 tel&fax 0747(22)4013

info@uchinono-yakata.com <http://www.uchinono-yakata.com>

月曜休館 月曜が祝日のときは開館して翌日休館 9時～16時

高校生以上 300円 小中学生 200円 20名以上 2割引



天誅組の手紙

藤岡家に届いた天誅組関連書簡

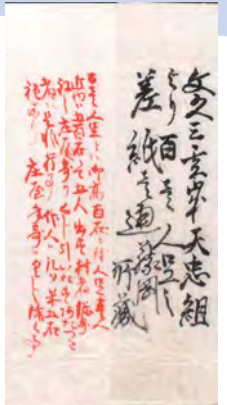
令和7年1月7日(火)～3月20日(木・祝)

登録有祈文化財「藤岡家住宅」

NPO法人 うちの館(やかた)

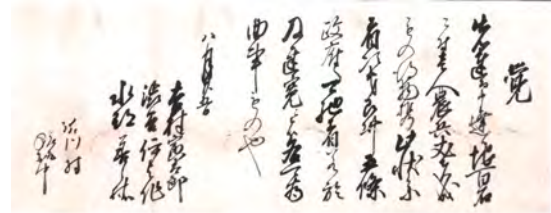
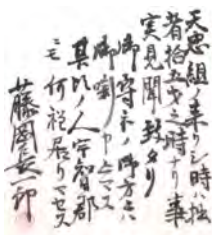
奈良県五條市近内町 526 Tel&fax0747(22)4013

info@uchinono-yakata.com <http://www.uchinono-yakata.com>



1 (新出) 天誅組(吉村寅太郎・渋谷伊與作・水郡善之祐)より書状(文久3年/1863年8月25日付)及びその関連資料 2 (新出) 吉村寅太郎顕彰碑文 3 南方熊楠より藤岡玉骨へ「明治維新発祥記」(樽井藤吉著)の中で紀州藩天誅組追討軍の一人荒巻が本陣・櫻井寺で自刃したという内容は誤認であると伝える書簡(大正11年) 4 (新出) 冊子「祖国」第7巻第1号(昭和29年2月1日刊)収載 伴林光平より藤本鉄石宛書簡(水木十五堂筆写)より翻刻内容(大和行幸計画について) 5 井沢宜庵より藤岡長兵衛・藤岡松次郎への中元挨拶状、天誅組から藤岡家へ申渡状『北宇智村史』 6 天誅組進発当時の御所内地図 安政元年/1854年4月6日「後院北殿火あり内裏に延焼す」『孝明天皇紀』—その後の修復を経て安政3年/1856年版『雲上明覧大全』より— など

資料1



資料4



資料3



吉村氏性藤原名重郷字於苑號黃尾庵大郎生於土州高岡郡津野五郷芥生聖家也為里正考稱太平叔吉良氏其嫡男也年甫十二能職歷任於此川頭時下分傳原君承有令名矣方是時幕府失政勇王攘夷之論競起君懷慨感奮慨奮而赴於東師與平野國重唱義舉出大義討與下藩志結英文又三平之變捕獲致於藩獄近幾觀中山公子忠先舉義兵於天和志應者急卒人世福天誅組矣先志詔曰車馬隨幸於大和時讓讓親征事既而朝議一變傳三條黃門以下廷臣數人之心朝免長藩出漸大和之臨幸遂親御於大和時讓讓親征之諸藩討議違矣於是分兵兩隊高取城不刊君欲間汗以藩城卒死士負草袖矢奔進遂達於敵兵來擊擄擄於上聖地收兵奔退而先鋒隊達於驚家口與敵激戰於此勳隊亦奮於蘇家谷敵親手來擊擄擄於驚美君從容將自刃忽死於敵車二十又五為仁大度敵國人愛人亦感世厚竟死於王事矣君初學於間崎浪浪後捷於中國及九郎遊語深矣官與鄉友謀書感曰櫻樹未開揚眼嬌次心呼友酒終宵一事矣君初學需患宜使本朝為奉朝又辭世曰墨余收矣乎見下毛思可奈阿須波加波根能上仁照哉君及而淺數麻王政渡古君夙志成矣勳祀於靖國神社贈正四位

誓曰精忠致身於君國偉勳赫赫之照予古聖昔優渥贈四位身後之祭亦大矣

土佐 高木紫山遊 浪卷春堂謹寫

資料2

〈南方熊楠より藤岡玉骨へ〉
大正十年一月廿六日午前十時頃書始ム
扱樽井翁ノ天誅組ノ書ハ其後一ト通り
拝読 中々小生ノ心得又コトモ多少ナ
キニ非ズ タトエバ紀州藩ヨリ天誅組
ヲ伐シトキ横巻小源太ハ主將ト争論シ
テ自殺シタトカ申スコトアリ 然レト
モ是ハ多分誤伝カト存候 拙母ガ多少
ノ縁アリテ奉公セシ徳田諄輔ト申ス老
医ノ養子ガ正稔ト申シ今年七十才斗リ
退役輻重兵大佐ニテ其長兄ガ本居豊頼
次兄ガ横巻小源太氏ニ御座候 此人前
代横巻小源太氏ノ養嗣トナリ天誅組征
伐ニユキ明治十年ニモ從軍シソノ後任
官ニ意ヲ絶チ丁度鹿子木知事ノ官邸ア
リシ辺ニ住ミ居シガ 鼓ノ名人ニテ当
地ヘモ来リ鼓打シコトアリ 和歌山県
誌ヲ見ルニ数年前舌癌ニテ死亡ノ由、
年輩ヨリ推スニ自殺云々ハ此人ニ相違
ナク、然モ右述通り此人ハ近年迄生キ
居タルニ御座候 此他ニモ此類ノコト
少ナカラズ(続く)